

音楽科の評価における授業改善

～ねらいと評価が一体となった自己評価の在り方について～

平和中学校 音楽科 村田 智

1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・学習のまとめ 自己評価

2 具体的な実践

(1) ねらいと本時に何ができればよいかを明確にする。

【3年生の実践】

A・**B**の表現にこだわって歌おう

こだわるとは？

①強弱記号

②歌い方（発声、発音、タイミング）

本時できればよいことは、今まであまり気を付けていなかった強弱記号通りに歌うこと、この歌を貫く自然描写を表現する発声や発音で歌うことである。漠然としていた「こだわって」の部分、生徒との対話の中で2つに絞ることで一人一人またはパートとして、何をすればよいかを明確にした。

(2) 評価の書き方

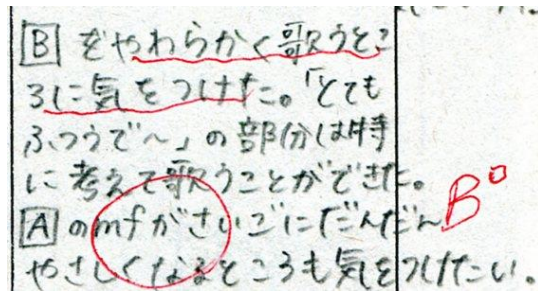
ねらいを達成したかどうか、自分でもはっきりと分かるように書き方を以下のように示した。

- a 課題の中で特に意識をして取り組んだことはなにか
- b 課題ができるようになるために、どんなことをしたか
- c 取り組んだことから生まれた次時への課題は何か

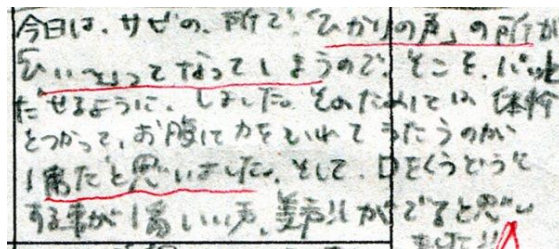
この3点を全て書くことはなかなか難しいが、一つないし二つでも書くことで、ただ歌えばよいと思っていた生徒が、課題を追究して表

現しようとする取り組みができるようになった。

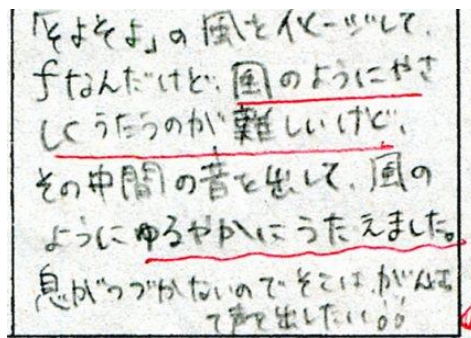
a パターンの書き方



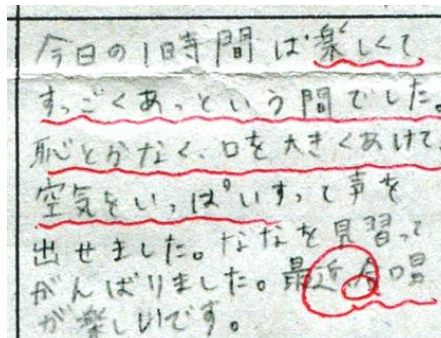
b パターンの書き方



c パターンの書き方



3 実践を振り返って考えられること



ねらいと評価を一体化することで力が付く。力が付けば、学習が楽しいと感じる。これからも継続していきたい。